



学校だより

8・9月号 (第225号)
令和8年8月27日発行
横浜市立並木中央小学校

恩師との再会

校長 齋藤 由美子

この夏に発生した熊本地震、及び千葉豪雨では、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。また、一日も早く平穏な生活を取り戻されますことをお祈り申し上げます。

子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。私たち教職員も閉庁期間には、しっかり休養することができました。うさぎのラテを預かってくださったご家庭もあり、働き方改革への一助を、ありがとうございました。

さて、この夏、半世紀ぶりに小学校時代の恩師にお会いする機会がありました。ご自宅に伺うと、すっかりおじいちゃんになった先生は、長い年月を経たにもかかわらず、私のことを覚えていてくださり、「由美子ちゃんは、いつもお友達を大切にしていたよね。ドッジボールも強かったね。」と昔と同じように褒めてくださいました。日記指導に熱心だった先生は、当時、必ず赤ペンでコメントを書いて、その日のうちに返してくださっていました。私は、先生からの返事が嬉しくて、話題が見つからない日でも、むりくり書いて提出したことを思い出します。今でも大切にしまっている日記帳を引っ張り出し改めて読むと、子どもらしさ溢れる数々ですが、その中からよりすぐりをコピーして先生のお宅に持っていきました。先生と私は、一緒に読んで大笑いしました。懐かしくて涙が出そうになりました。

3年生の私は、先生が大好きでした。先生は、私だけでなく、誰にでも優しく、寄り添ってくれる方でしたから、みんな先生のこと大好きでした。子どもの頃に大切にされたという記憶は、半世紀という時間を越えても、ずっと心に残っているものなのだと改めて思います。言葉では『一人ひとりを大切にする』と言いますがその価値と同時にその難しさも、今、学校の教師になって本当によく分かります。先生からいただいた『一人ひとりを大切にする』ことは、これからの学校教育において、ますます重要になる考え方です。次期学習指導要領においても、子どもたち一人ひとりをよく見て、多様な子どもたちのよさや可能性を大切に育んでいく『多様性の包摂（ほうせつ）』という視点が、重視されていきます。考えてみれば、学校とは、一人ひとりが違うからこそ学び合える場所です。得意なことも、苦手なことも、興味をもつことも、学ぶ速さも、それぞれ違います。その違いを認め合いながら、共に成長していくことが学校の大きな役割なのだと思います。

半世紀前に恩師から受け取った「大切にされた」という思いを心に刻み、夏休み明けからも、教職員と共に、一人ひとりの子どもの姿をよく見つめ、その声に耳を傾け、それぞれのよさや可能性を大切にしながら教育活動を進めてまいります。